



石神幼稚園の園庭は、いつも土を掘ったり、水の流れる跡がついたりして、ふこぼこしている。園児や先生は慣れてはいるけれど、今度の木曜日の七夕祭りには地域のみな様にお越しいただく予定なので、少し平らにした方がいいかなと思い、均（なら）していた。

少し高いところを削り、少し低いところを埋めるを繰り返していると、「何やってるの？」と年長の女の子が声をかけてきた。「ここの土をこっちにお引越してやるの」とシャベルでその場所を指しながら説明すると、じっと見ていて「ああ、高いところの土を低いところに埋めて、平らにしてるんだ。」と言った。目の前の出来事を、こんなに的確に言語化することができるなんて、年長さんぐらいになると、もう頭の中で知っている言葉を組み合わせ、思った通りに伝えることができるんだなあと感じた。

もう一人やってきて、何やってるのと聞かれたので、かくかくしかじかと答え、「よく見てまあ、どこか高いところある？」とたずねると、「あ、ここはちょっと高い」と言って削ってくれた。何も言わずとも、手伝ってくれるなんて、人の心に寄り添うとはこういうことなんだなあと感じた出来事だった。

